

【日向市立細島小学校】

事業の実施時期：補助を受けた日から 令和6年3月7日

活動の概要

第4学年の総合的な学習の時間を中心に、初めて環境問題に触れる子どもたちに問題意識を持たせ、児童が環境保全の重要性を理解できるよう環境教育を進めた。また他教科との連携を図りながら、より理解を深められるようにした。他学年においても、各教科で環境教育の視点を取り入れる指導を行い、環境保全の意識を根付かせる取組を行った。

SDGsの視点：11 住み続けられるまちづくりを 14 海の豊かさを守ろう

1 学校の概要

細島小学校は、明治20年に開校した、創立137年の歴史ある学校である。

日向市の東端に位置する細島地区は歴史的建造物や自然景観地、古い寺院や神社、伝統的な町並みの景観が多く残っている地域である。また、学校の近くには古くから海上交通の重要な役割を果たしてきた細島商業港がある。漁業も盛んであり、様々な魚が水揚げされている。また、美しい海岸線や自然も広がっており、子どもたちを取り巻く自然環境は大変素晴らしいものとなっている。

2 活動のねらい

これまで、第4学年では総合的な学習の時間のテーマを「細島の環境」として学習をしてきた。そこに4RとSDGsの視点を取り入れながら、環境問題に対する問題意識をもたせ、環境保全の重要性をより深く理解させることを目指した。また、他学年においても環境教育の視点を取り入れた授業を行うことで、児童が環境保全について考える素地を養うことを目指した。

3 活動内容

(1) 第4学年「細島の環境を守ろう」

ア ビーチクリーン作戦（総合的な学習の時間）

地域の自然環境の実態をつかむために、校区内にある御銚ヶ浦海水浴場にてゴミ拾いを行った。海上保安署の方にも協力していただき、ゴミを拾うだけでなく、海にはどんなゴミが捨てられる傾向があるのか、また、それらが及ぼす環境問題についても学習した。



イ リサイクルセンターの見学（社会科）

第4学年の社会では、「ごみ処理と利用」についての学習を行う。ビーチクリーン作戦での経験を基に、リサイクルセンターの見学を行った。児童はセンターでの様子を見聞きし、ごみを処理するための様々な取り組みは資源の有効利用ができるように進められ、地域の人々の生

活環境の維持と向上に役立っていることを理解できたようである。

(児童の感想より)

- ・ 4R を家でも実行したい。
- ・ 家族にも教えて4Rをみんなで作りたい。
- ・ ごみになるものは断ったり、繰り返し使ったりしてリサイクルをしたい。
- ・ これから、ゴミを捨てる時は何できているかきちんと見たい。

その後、公園で拾ったドングリと2年児童が育てていたサツマイモのつるを活用し、リースづくりを行った。自然のものや廃材を活用して、楽しく造形物を作ることができた。



(2) 他学年における環境教育

ア 講話「SDGsって何だろう？」

(4～6年：理科)

環境問題と環境保全についての基礎を学ぶために、シンク・オブ・アザーズの難波裕扶子氏を講師として招聘し、第4学年から第6学年合同で授業を行った。地球が抱えている環境問題についての資料などを目にして、児童は地球規模での環境問題を考えるきっかけとなった。またSDGsについてのワークショップを通して、児童がSDGs 17のゴールを身近なものとして、興味をもちながらSDGsに親しむ様子が見られた。



イ サツマイモつるでリース作り

(1年：生活科)

第1学年は生活科「あきといっしょに」の学習で日向市内の公園へ出かけ、ドングリを拾ったり、落ち葉で遊んだりする活動を行った。自然の中で遊ぶ楽しさを感じることができていた。

4 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 第4学年においては、総合的な学習の時間の内容と社会科を関連付けて学習することで、自分たちの地域を守るためにできることを具体的に考えることができていた。
- 多くの学年において、児童がこれまで行ってきた学習を4RやSDGsの観点から価値付けを行いながら学びを進めることで、教師も児童も環境問題や環境保全に対する意識をもって指導を行ったり、学習へ取り組んだりすることができた。
- 今年度4RやSDGsについて学んだことについて、今後は児童が日常生活の中で、自発的でより具体的な行動として表れるような指導を継続していきたい。

学校名：日向市立細島小学校

住所：日向市大字細島593番地1

電話番号：0982-52-2606

E-mail：1604ea@miyazaki-c.ed.jp